



# 日本統計学会 会報 2024.1.31 No. 198

発行—— 一般社団法人 日本統計学会  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F  
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局  
Tel & Fax : 03-3234-7738  
編集責任——川崎 能典(理事長) / 小山 慎介(庶務理事)  
小西 葉浩(広報理事) / 浦沢 聡士(広報委員)  
塚本 高浩(広報委員)  
振替口座——00110-3-743886  
銀行口座——みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

## 目次

- |  |  |
|--|--|
| 1. 巻頭随筆：低次元統計のすすめ……吉田朋広… 1   | ……………川崎能典・高部勲・塚原英敦ほか… 9                              |
| 2. 日本学術会議より公表された見解「大学における<br>数理・データサイエンス・AI教育の中での統計<br>科学の教育について」の紹介<br>……………竹村彰通・栗木 哲・西郷 浩… 3 | 6. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集<br>……………川崎能典… 9                |
| 3. 2023年度統計関連学会連合大会の報告<br>……………竹内光悦・西山慶彦・橋口博樹… 4   | 7. 2023年1～6月統計検定 CBT 方式試験の成績優<br>秀者……………照井伸彦・川崎能典…13 |
| 4. 2024年度統計関連学会連合大会のお知らせ<br>(第一報)……藤木美江・橋口博樹・地道正行… 8   | 8. 理事会・委員会報告 (2023年10月6日開催) …15                      |
| 5. 第18回日本統計学会春季集会のお知らせ(第二報)  | 9. JSS Research Series in Statisticsからの新刊情報…16       |
|  | 10. 日本統計学会和文誌特集号の原稿募集……………17                         |
|  | 11. 学会事務局から……………17                                   |
|  | 12. 投稿のお願い……………17                                    |

## 1. 低次元統計のすすめ

吉田 朋広 (東京大学)

教科書には、モーメント法の分散は大きく、最尤法は漸近分散が最小で最適とあります。最近の経験から、点過程による約定時刻に基づく株価間のリードラグの計測で、モーメント法では実際上推定不能であったところ、Palm 型擬似尤度ではパラメータが上手く推定でき、実証分析ができました。基本を忘れるべきではないと再認識。また、ある金融データの確率微分方程式による解析は、2パラメータモデルでは安定的にパラメータ推定可能なところ、3パラメータモデルでは実際上の共線性が生じ安定的な推定が困難な問題でした。高次元パラメータを持つ複雑なモデルの利用に期待が寄せられていますが、現実には容易いものではありません。古典的な方法と知見が常に基本として重要であることには変わりはありません。私は低次元な研究者ですが、それでも理論統計の問題

は現在でも尽きません。私の周りで起きた低次元統計での事例をいくつか紹介します。

漸近ミニマックスリスクバウンドは推定量の良さを評価するための不等式です。統計の実験が局所漸近正規の場合、Hájekにより、その下界を達成する推定量が1次漸近有効とされます。これはLe Cam-Hájekによる漸近決定理論の基本的な概念です。確率過程の統計学における考察から、漸近決定理論は非エルゴード的統計に拡張され、今日では、金融等の高頻度データの統計学に利用されています。スパース推定・正則化法も漸近決定理論の枠組みで捉えることが可能です。学習理論において、ディープラーニングの予測誤差の最適性は、ノンパラメトリック統計における推定誤差のミニマックス評価と同様の方法で保証されます。機械学習では汎用性と大量データの利用が強調さ

れ、伝統的な統計手法の対局にあると思われがちですが、統計理論から眺めると大きな非線形モデルによる統計推測であり、その正当化の方法は伝統的な統計学の範疇にあります。

推定量が漸近有効であることを示すにはリスクの収束を示す必要があります。スケールされた推定誤差の  $L^p$  評価が必要になり、これは数学的に困難な問題で、Ibragimov-Khasminskii 理論に訴えることとなります。尤度比のなす確率場の裾の大偏差不等式が理論の中核にあり、とくに従属系の統計において障害です。確率過程の統計学は非線形、非ガウス、非マルコフ、非定常、非エルゴード、非正則観測という複雑な状況を扱うため、直接そのエンジンを動かすのは困難で、個々の統計モデルの性質によらない、擬似尤度の局所漸近2次構造に基づく多項式型大偏差不等式の一般的な証明によってこの障害が解消されたのは比較的最近のことです。非線形従属系に対するベイズ推定量の漸近挙動が明らかになり、確率微分方程式の適応的推定アルゴリズムや従属系に対するQBICの正当化など、多くの適用例があります。推定量の漸近展開では  $L^p$  評価なしには理論が構成できません。最近、混合モデルや階層型モデルなどの識別可能性のない統計モデルへの擬似尤度解析の一般化が進んでいます。モデルの代数幾何学的構造と一般化された擬似尤度解析から正則化された推定量の漸近挙動が示されます。頻繁に応用されるHawkes過程はパラメータ空間の端点において識別不可能な点過程モデルです。多次元Hawkes過程の退化を捉えることでSNSデータのネットワーク推定ができるように、この問題は本質的なものです。

生存解析のいろいろな手法はセミマルチンゲール理論と極限定理の導入によって理論的に正当化され、一般化されました。生存解析の方法は、危機を経験した金融工学で、クレジットリスクの評価に利用されるようになりました。点過程が役立ち、それはまた超高頻度金融データ解析においてリミットオーダーブックのモデリングで基本的な役割を果たします。証券価格のモデリングは、ブ

ラウン運動に基づく古典的な方法から、価格形成の背後にあるオークションシステムそのものの時間発展を記述する方法に飛躍しています。時空間従属性の統計学はますますその領域を広げ、確率偏微分方程式の統計解析が進展しています。

昨今、大きなデータを前提に大きな統計モデルの利用が人々の関心を引いていますが、それは統計学的方法の一つの類型にすぎません。難病・希少疾患、先端医療の領域では、データ数は限られ、統計家は少数データから最大限の情報を取り出すことを要求されます。さらに、ランダム化比較試験は倫理的に不可能であり、侵襲性のある処置において治療群と対照群の共変量分布は異なり、因果推論の方法が必要になります。関心が生存時間であれば、マッチング法と生存解析の融合が必要です。傾向スコアは重要ですが、その適用には批判もあり、CEMなどの代替法が提案されています。因果推論は構造的に確率過程論に通じます。バッチドバンディットはデザインが実験のアウトカムに応じてランダムに時間発展するため、非エルゴード統計の様相を呈しています。さらには、ランダム環境下の確率微分方程式の汎関数に対して得られた漸近展開法が、処置効果の検定統計量の棄却域の構成に役立つ例があります。

統計学で培われた漸近展開法は確率分布の近似公式を系統的に生成する実用的な方法です。マリアバン解析（無限次元確率解析）は確率過程の分布の正則性を捉えるため、漸近展開との結びつきは古く、1990年代以降発展し、現在では非エルゴード系に対する理論もあります。2000年代の4次積率定理以降、マリアバン解析による極限定理が確率論で流行っています。対象は、非整数ブラウン運動のようなマルチンゲールでないものへ広がっており、漸近展開理論も進展しています。非整数ブラウン運動で駆動される確率微分方程式に対するボラティリティ推定は、ブラウン運動の場合のそれに対応して低次元統計学の問題ですが、新しく、漸近展開についてはここ2年くらいに結果が出始めました。摂動による漸近展開を用いると、オプション価格の計算が高精度に可能なこと

は30年ほど前に示しましたが、公式の計算は別の問題です。最近 Emanuele Guidotti 氏はその計算を自動化するパッケージを与えました。確率微分方程式の係数関数、初期値、ペイオフ関数を代入すると、10秒ほどで5桁の精度で期待値の近似値を返してきます。モンテカルロ法によると、同精度の計算を実行するためには Google Cloud サーバー上で3ヶ月かかります。はて、万能機械たるディープラーニングはこのような精度の計算式を発見できるでしょうか。

統計学はエビデンスに基づく科学を支えるインフラです。レトリックに走り人々に誤った幻想を抱かせたり、ましてや黒魔術になったりしてはい

けません。卑近なところでは、今回のコロナ騒動に対する政策について、公的統計データから政府の判断が統計学的に妥当なものだったか、検証を要する事案は多くあります。難しいことを言っているのではなく、それはたとえば、ランダム化比較試験という理想状況において処置の効果を検定するレベルのことで、低次元モデルの古典論で十分です。統計的判断として明らかな間違いや、データに基づく仮説の有意性検証を怠った決めつけに対して、日本統計学会はそれを正すべく社会によりコミットすべきではないでしょうか。こと統計に関しては、国民の負託を受けている自負自覚が必要であろうと思います。

## 2. 日本学術会議より公表された見解「大学における数理・データサイエンス・AI教育の中での統計科学の教育について」の紹介

竹村 彰通（滋賀大学）  
栗木 哲（統計数理研究所）  
西郷 浩（早稲田大学）

このたび、日本学術会議数理科学委員会数理統計学分科会は、見解「大学における数理・データサイエンス・AI教育の中での統計科学の教育について」を取りまとめ、日本学術会議に提出した。その見解は査読を経て受理され、2023年9月26日に日本学術会議の website に公表された。

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-k230926-24.pdf>

この見解は22人の統計研究者が共同で作成した。その多くは日本統計学会の会員である。また、日本における統計教育の在り方を主題としながら、過去から現在にいたる統計科学の発展を豊富な文献に基づいて概観しており、日本統計学会の会員にも有用な情報源になる。そこで、この会報において、本見解の概略を会員に紹介する。

この見解は、要旨2ページ、本文20ページ、参考文献14ページ、参考資料3ページ、付録15ページで構成される。日本学術会議に提出される見解の本文は20ページまでとされている。このため、

付録の中にも本文と変わらない体裁の文章が多く含まれる。

本文は6つの章から成る。第1章「はじめに」は、見解を公表する目的と、最終章で提示される提案を示している。第2章「統計科学の役割」は、統計科学の特性を整理した上で、技術進歩の著しい現代における統計科学の発展とその社会における応用をまとめている。第3章「国際的動向」と第4章「日本におけるこれまでの統計科学教育改善の動き」では、海外における統計教育の現状（第3章）と対比して、日本における統計教育とその改善の取り組みの推移（第4章）が記述されている。第5章「日本における統計科学の教育・研究体制の現状と課題」で指摘された課題を解決するための4つの提案が第6章「統計科学教育・研究推進への提案」で提示されて本文が終わる。155件に及ぶ参考文献のリストには、論文や書籍だけでなく、国内外で公表されている提言やシラバスなどが含まれている。これも、執筆者が

協力して収集した成果であり、統計科学や統計教育の今後に関心を持つ会員に有用であろう。

見解作成の構想から各章の分担執筆、全体の調整、日本学術会議による査読に対応した修正、最

終的な受理・公表までに約1年の時間を要した。統計科学の関係者から社会への有効なメッセージとなるだけでなく、統計科学の関係者自身の道標ともなることを願っている。

### 3. 2023年度統計関連学会連合大会の報告

運営委員長 竹内 光悦 (実践女子大学)  
実行委員長 西山 慶彦 (京都大学)  
プログラム委員長 橋口 博樹 (東京理科大学)

#### 1. 大会概要報告

竹内 光悦 (実践女子大学)

2023年度統計関連学会連合大会は、2023年9月3日(日)～7日(木)に統計関連学会連合に所属する6学会(応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会)の主催により開催されました。3日は市民講演会とチュートリアルセッションが、4日～7日は本大会が行われました。今回は京都大学吉田キャンパスにて、一部オンラインもありましたが、主として現地開催とするハイブリッド開催で行いました。

昨年に引き続き大会開催期間を5日間で行いましたが、大きな問題もなく無事終了でき、大変嬉しく思います。市民講演会の参加者は現地参加が195人、オンライン参加が197人の合計392人と大変盛況でした。また、参加登録者として、チュートリアルが326名、本大会参加登録者数は1,054名でした。講演件数は352件(キャンセルを除く)にのぼり、今年度の大会は盛会のうちに終了しました。講演件数の内訳は、プレナリーセッション1件、企画セッション134件(ソフトウェア・デモンストレーションセッション4件を含む)、一般セッション190件、コンペティションセッション27件(1件は審査対象外)でした。

今回の大会が無事に終了し、また大会の円滑な運営を行うことができましたのも、ひとえに関係者の皆様のご理解とご支援によるものと心より感謝しております。講演者、座長、企画セッション

オーガナイザー、参加者の皆様にお礼を申し上げます。また、今回の大会では、講演報告集を初めて電子版を標準としたことなど、新たな試みも行い、その有用性や課題も分かりました。これらは今後の参考にしたいと思います。また主として対面としたことから参加人数も登録者数で千人を超えるなど、予想を大きく上回り、大会関係者として、改めて、感謝いたします。また数年ぶりに対面での人数を制限した懇親会にも早々のご予約があり、予約終了後のお申し込みをお断りせざるを得ない状況でしたこともお詫びしたいと思います。これらの大きな変化にもかかわらず、例年と変わらぬご協賛をいただいた多くの企業・団体様にも重ねてお礼申し上げます。

連合大会は今回で22回目を迎え、対面/オンラインでの学会開催の方法も経験を積み、また参加者のより参加しやすい体制づくり、またスタッフの業務の効率化も含め、一部の事務局業務について外部委託を行いました。ウェブサービスやQRコードによる当日受付などにおいても、主として対面で行っていたときは情報の一元管理や受付でのスムーズな対応など、様々な点で進化していると感じています。もちろんまだまだご不便な点などもあったかと思えます。それを大きな心で受け入れてくださった6学会の会員の皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。最後に、宿久組織委員長、西山実行委員長、橋口プログラム委員長、地道プログラム副委員長、藤木運営副委員長をはじめ、ボランティアで活動してくださいました、

実行委員、プログラム委員および運営委員の皆様、京都大学を中心とした職員およびアルバイト学生の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

## 2. 市民講演会・チュートリアルセッション報告

西山 慶彦 (京都大学)

今年の市民講演会では、京都大学文学研究科の大塚淳准教授に講師を依頼し、「AI以降の科学を考える」というタイトルで御講演して頂きました。科学と統計学の関係を歴史的に振り返り、近年のAI技術の急激な発展によってその関係がどのように変わっていくのかについて議論がされました。更に、人間の理解を超えた莫大なデータを機械学習によって処理されて得られた結論が持つ科学的な意味についての哲学的考察が加えられました。大所高所から科学と統計学のかかわりについて考える機会を提供して頂き、現地、オンライン合わせて400名近い参加登録があり、盛況のうちに終了となりました。

続くチュートリアルセッションでは東京工業大学の岡崎直観教授に、「言語モデルと自然言語処理のフロンティア」というタイトルで御講演して頂きました。ChatGPT発表以降、大規模言語モデルが社会に大きな影響を及ぼしていますが、その基礎となる自己回帰型のニューラル言語モデルを最尤法で学習することや、長距離依存を効率よく扱う注意機構によって飛躍的に進化したトランスフォーマーのしくみを数式レベルで丁寧に解説いただきました。最新の言語モデルが取り入れている様々なアイデアや、このような技術が社会へ与える悪影響まで広範な話題が凝縮された3時間でした。320を超える参加登録者によって現地、オンラインともに多くの質問があり、盛況のうちに終了となりました。

最後に、市民講演会とチュートリアルセッションの開催に際して、御講演を快くお引き受けくださった大塚淳先生、岡崎直観先生に心から感謝申し上げます。

## 3. プレナリーセッション、企画セッション報告

黒沢 健 (東京理科大学)

橋口 博樹 (東京理科大学)

連合大会初日の9月4日(月)午前、プレナリーセッションが開催されました。今年度は「日本統計学会欧文誌から国際的新雑誌への発展を計る取組」による補助を受けてJeng-Min Chiou教授(National Taiwan University, Academia Sinica)から「On multiple change-point detection in functional data」というタイトルでご講演いただきました。

その他に本大会では、ソフトウェア・デモンストレーションセッションを含む30件の企画セッションが開催されました。セッション名とオーガナイザー(敬称略)を以下に示します。

(整理番号)、テーマ名(セッション名)、オーガナイザー(敬称略、所属は申込情報を基に作成)

- (01) ビジネスにおけるデータ科学の応用 (松田安昌 (東北大))
- (02) 統計エキスパート人材育成 - 多様な分野での統計活用と発展 (中西寛子 (統数研))
- (03) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療健康データ科学のフロンティア」 (松井茂之 (名古屋大・統数研), 伊藤陽一 (北海道大), 田栗正隆 (東京医科大), 三分一史和 (統数研))
- (04) アカデミアと企業との共同研究 (川野秀一 (九州大), 藤澤洋徳 (統数研))
- (05) 個別化医療に向けたヘルスデータサイエンスの実践: 臨床予測モデルの最前線 (手良向聡 (京都府立医科大), 松山裕 (東京大))
- (06) 応用統計学会企画セッション「高次元統計解析の最近の発展」 (西山貴弘 (専修大), 山本紘司 (横浜市立大))
- (07) 日本計算機統計学会 企画セッション『医療ビッグデータと疫学・統計の実際』 (弘新太郎 (ファイザー R&D 合同会社))
- (08) アクチュアリアル・データサイエンスの広がり (清水泰隆 (早稲田大))
- (09) 応用統計学会 学会賞受賞者講演 (南美穂子 (慶應義塾大), 星野崇宏 (慶應義塾大))

- (10) 統計情報研究開発センター統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰授賞式・記念講演（會田雅人（統計情報研究開発センター））
- (11) 日本統計学会 会長講演，各賞授賞式，各賞受賞者記念講演（大森裕浩（東京大））
- (12) 日本統計学会 各賞受賞者記念講演（大森裕浩（東京大））
- (13) 確率微分方程式モデリングのための統計ソフトウェア開発プロジェクトYUIMAにおける最近の成果の紹介（小池祐太（東京大））
- (14) 統計改革の新地平 ―経済活動の構造変化をどのように捉えるか―（1）（肥後雅博（東京大））
- (15) 統計改革の新地平 ―経済活動の構造変化をどのように捉えるか―（2）（肥後雅博（東京大））
- (16) 公的統計のデータ構造化とマイクロデータ分析の展開（南和宏（統数研），伊藤伸介（中央大），高部勲（立正大））
- (17) 統計・データサイエンス領域の研究・実践における多様性の育成（多様性推進特別委員会，女性統計家・データサイエンティスト育成分科会）
- (18) データサイエンス系学部の現況（椎名洋（滋賀大））
- (19) 大規模データのプライバシー保護を目指した秘匿措置の展開可能性（佐井至道（岡山商科大），星野伸明（金沢大），伊藤伸介（中央大））
- (20) アカデミックにおける多様性と多様性推進の取り組みについて（南美穂子（慶應義塾大））
- (21) AI・デジタル時代に向かう統計・データサイエンス教育方法論の新展開（竹内光悦（実践女子大），藤井良宜（宮崎大），渡辺美智子（立正大））
- (22) ベイジアンモデリングの進展（入江薫（東京大））
- (23) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演（川口淳（佐賀大），口羽文（神奈川県立保健福祉大），長谷川貴大（塩野義製薬），横田勲（北海道大））
- (24) プレナリーセッション（荒木由布子（東北大），各務和彦（名古屋市立大））
- (25) 地震ビッグデータ解析の最前線（長尾大道（東京大），加藤愛太郎（東京大），矢野恵佑（統数研））
- (26) アジアの公的マイクロ統計の活用（馬場康維（統数研），岡本基（統数研））
- (27) 社会的関心の高い問題における統計家の貢献と社会的使命～ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの安全性評価を題材にして（吉村健一（広島大），天津洋（順天堂大））
- (28) 偏りのあるデータに対する解析手法の最前線（森川耕輔（大阪大），菅澤翔之介（慶應義塾大））
- (29) 日本計量生物学会シンポジウム「計量生物学と生態学の新展開」（島津秀康（Loughborough University））
- (30) ソフトウェアデモンストレーションセッション（竹内光悦（実践女子大））

#### 4. コンペティションセッション報告

地道 正行（関西学院大学）

今年度は，9月4日（月）から9月5日（火）の2日間に5つのコンペティションセッションが設けられました。全部で28件の発表申込がありましたが，発表申し込み締め切り日までに，関連学会への入会あるいは入会の手続きが確認できなかった1件は審査対象外とし，1件の発表辞退がありましたので，実質的には26件の発表がありました。

審査では，今年度もこれまでと同様に，研究内容とプレゼンテーションの双方を評価対象としました。限られた時間で，専門外の人に対して，いかに自分の研究内容を報告するかということも重要な評価項目です。原則として7名の審査員が審査を担当し，各発表に対してA（5点）～E（1点）の評価を与えました。全審査員のスコアの最大値と最小値を除いた刈り込み平均により順位をつけ，最優秀報告賞と優秀報告賞を決定しまし

た。

選考の結果、最優秀報告賞1件、優秀報告賞4件が選ばれ、9月7日(木)の12:10から対面形式により表彰式を執り行いました。

最後に、審査員および座長をお引き受けいただいた方々に、この場を借りて御礼申し上げるとともに、ご発表いただいた全員の方々の研究が今後益々進展することを願っております。

今年度の表彰者は下記の通りです。

#### 最優秀報告賞(1件)

澤谷 一磨(東京大学)

「非対称リンクをもつ高次元一般化線形モデルの統計的推論」

#### 優秀報告賞(4件)

塩谷 天章(東京大学)

「多変量Neyman-Scott点過程モデルの統計推測とその高頻度金融データ解析への応用」

西森 勇人(東京大学)

「高次元入力に対する2層線形ニューラルネットワークの特徴学習と汎化誤差解析」

中川 皓太(東京大学)

「非一様確率的ブロックモデルにおけるコミュニティ推定のminimaxレート」

武石 将大(統計数理研究所)

「高次元サブグループ分析における縮小化尤度比検定」

### 5. コンペティションセッション受賞者の言葉

#### 最優秀報告賞

澤谷 一磨(東京大学)

この度、コンペティションセッションの最優秀報告賞を頂戴し誠に光栄に存じます。本大会の企画・運営及び本審査に携わって下さった関係者の皆様に心から感謝申し上げます。また、共同研究者であり発表内容の改善にご協力いただいた今泉允聡先生と植松良公先生に深く感謝いたします。本報告では、サンプルサイズと説明変数の個数とともに比例的に発散する高次元レジームにおいて、一般化線形モデルの推定・推論でバイアスが

生じることを示し、バイアス補正法の構築およびその理論的妥当性を提示いたしました。これにより、サンプルサイズと説明変数の数が同程度の状況における科学的発見の信頼性を高めることが期待されます。今回の受賞を励みに、一層良い研究を追求し、学問に邁進してまいりたいと思います。今後ともご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 優秀報告賞

塩谷 天章(東京大学)

この度は素晴らしい賞を頂戴し、誠に光栄に思います。吉田朋広教授をはじめサポートくださった研究室の方々、本セッションを企画運営してくださった先生方、質問してくださった方々、審査委員の先生方全てに深く感謝申し上げます。初めての学会発表で不安な面も多々ありましたが、審査委員の先生方に研究を評価していただいたことは自信になりました。受賞を糧にしてさらに研究を発展させていきたいと思っています。

西森 勇人(東京大学)

この度は統計関連学会連合大会にて優秀報告賞をいただき、大変嬉しく思います。学会運営にご尽力くださった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。指導教員の鈴木大慈先生には日々の研究活動から発表にいたるまで大変手厚くご指導いただき、その成果として今回の賞をいただくことができました。この場を借りてお礼申し上げます。本研究では深層学習の良性過学習について解析することを目的に、高次元入力に対する2層線形ニューラルネットワークの汎化誤差を評価しました。結果として、特徴学習のステップサイズが小さい場合には汎化誤差の詳細な評価を得ることができ、特に一段特徴学習においては自然勾配降下による特徴学習が大きくバイアスを減少させるということを明らかにしました。今回の受賞を励みに、これからもより一層研究活動を頑張りたいと思っています。

中川 皓太 (東京大学)

この度はコンペティションセッションにおいて優秀報告賞を頂き、大変光栄に思います。大会の企画・運営や審査に携わられた関係者の皆様に深く感謝致します。また、常日頃よりご指導いただきました駒木文保先生をはじめ、研究を支えてくださった皆様に感謝申し上げます。本発表では、多層ネットワーク上でのコミュニティ構造を扱うモデルである IMLSBM について、そのコミュニティ推定の minimax レートの導出、および高速なアルゴリズムによる minimax レートの達成について報告しました。今回の受賞を励みに、今後も有意義な研究ができるよう、一層精進していきたいと思ひます。

武石 将大 (統計数理研究所)

この度はコンペティションセッションにおいて優秀報告賞を頂き、大変光栄に思います。企画、

運営をして下さった関係者の皆様並びに審査を担当して頂いた先生方に深く感謝申し上げます。また日頃お世話になっている東京大学経済学研究科統計学コースの先生方、とりわけ指導教員である下津克己先生にもこの場を借りて御礼申し上げます。さて、本発表では臨床治験等で薬の効果が他とは異なる集団 (サブグループ) が存在するかどうかを仮説検定する手法を開発しました。本研究で扱う仮説検定は、サブグループが存在しないという帰無仮説下でサブグループを特徴付けるパラメータが識別できないという特異なものとなっています。そのような識別できないパラメータを帰無仮説下で一点に縮退させることで特異性を解決する検定統計量を提案し、サブグループを特徴付ける変数が高次元の場合でも上手く働くことを示しました。今回の受賞を励みに今後も精進していきたいと思ひます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 4. 2024年度統計関連学会連合大会のお知らせ (第一報)

運営委員長 藤木 美江 (愛知淑徳大学)  
実行委員長 橋口 博樹 (東京理科大学)  
プログラム委員長 地道 正行 (関西学院大学)

### 1. 2024年度統計関連学会連合大会について

2024年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の主催により、下記要領にて開催いたします。

開催場所は東京理科大学 (神楽坂キャンパス) を予定しています。開催方式については現在のところ、ハイブリット方式 (対面・オンライン併用) での開催を検討中です。3月上旬発行予定の第二報にてご案内の予定です。

日程: 2024年9月1日 (日) - 5日 (木)

9月1日: チュートリアルセッションおよび市民講演会

9月2日 - 5日: 本大会 (一般講演, 企画セッ

ション, コンペティションセッション, ソフトウェアセッションなど)

### 2. 各種企画について

本大会においても従来の大会と同様に、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション (4月上旬に締め切りを設定予定)、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなどを予定しています。何かご意見やご提案をお持ちの方はプログラム委員会 (kikaku2024 (at) jfssa.jp) までお知らせください ((at) を @ に置き換えてください)。企画セッションの公募は第二報 (3月上旬発行予定) で、各種企画は第三報 (4月下旬発行予定) で、それぞれお知らせする予定です。

### 3. 一般講演や大会参加について

一般講演や参加の事前申込、報告集原稿提出は今後開設するホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬（予定）とし、それ

以降に、報告集原稿提出および参加の事前申込の締め切りを設定いたします。発表を計画されている方は予定に組み込んでいただければ幸いです。確定した期日は、第三報でお知らせいたします。

## 5. 第18回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

川崎 能典（日本統計学会理事長）・高部 勲（理事：大会・企画・行事担当）  
高部 勲・塚原 英敦・玉谷 充・白川 清美・秋元 良友（企画・行事委員会）  
塚原 英敦・玉谷 充・渡邊 隼史（実行委員会）

第18回日本統計学会春季集会を成城大学において、下記のとおり開催します。プログラムについては、招待講演による4つの企画セッション、国際基調講演及び昼の時間帯にポスターセッションを設ける予定です。セッション及びプログラムについては、随時、春季集会ウェブサイトにおいてアナウンスします。

また今回も、ポスターセッションの発表を広く募集しております。今回のポスター発表は現地での対面報告のみとし、1報告当たりのコアタイムを55分とした入替制とする予定です。優れたポスターに対して「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与し、セッション終了後、授賞式を行います。

企画セッション及び国際基調講演に関しては、遠隔からのオンラインによるリアルタイム参加も可能な形で開催します。多数の会員の皆様の参加をお待ちしております。

記

日時：2024年3月9日（土）

10時00分～18時00分

会場：成城大学（東京都世田谷区成城6丁目1-20）

参加費：学会員は無料（非会員は有料とする予定です）※今回は成城大学キャンパス内で懇親会（有料）を開催予定です。

#### ○プログラム等の詳細

プログラム等の詳細情報については、春季集会ウェブサイトをご覧ください。

#### ○事前参加登録

本集会は、会場の都合上、事前の参加登録に御協力ください。オンライン聴講は事前の参加登録が必須です。春季集会ウェブサイト内の参加申込ページからお申し込みください。

#### ○ポスターセッションの申込み

春季集会ウェブサイト内のポスターセッション申込ページからお申し込みください。ポスターセッションに関する詳細についても、同ページをご覧ください。なお、ポスターセッションにおける表彰の審査対象は日本統計学会会員（ポスター発表までに入会の手続きが完了している方）に限定しておりますので、御留意ください。

## 6. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

川崎 能典（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第29回 日本統計学会賞

第4回 日本統計学会中村隆英賞

第20回 日本統計学会統計活動賞

第20回 日本統計学会統計教育賞

第18回 日本統計学会研究業績賞

第17回 日本統計学会出版賞

第38回 日本統計学会小川研究奨励賞

いずれも推薦期間は、2023年12月4日（月）から2024年3月22日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ (<https://www.jss.gr.jp/society/prize/>) からダウンロード可能です。推薦書は各賞ともすべて電子ファイル（パスワード保護、ファイル中のテキストを抽出できる形式でお願いします）を学会事務局宛に電子メールにてお送りください。メールの標題には、賞の名称を明記してください。（例：「日本統計学会賞推薦書類」）

不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

〔照会先〕

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL & FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

#### ○各賞共通

〔推薦方法〕

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

〔選考方法〕

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

〔発表〕

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

#### ○各賞の概要

##### 日本統計学会賞

〔趣旨〕

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

〔対象範囲〕

対象とする分野は次の通りとし、全体として年間3名程度に授与する。

**理論**：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

**実証・応用・計算**：この分野は以下のような内容を含む。

- (1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。
- (2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。
- (3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。
- (4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

**その他**：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

〔推薦・選考方法〕

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

〔賞の内容〕

賞状および記念品などの副賞を授与する。

##### 日本統計学会中村隆英賞

〔趣旨〕

経済統計の研究及び実務並びにこれに関連する分野の分析、理論、手法等の発展において顕著な

業績のあった個人を顕彰し、我が国の経済統計の発達、普及、啓発に貢献することを目的とする。

#### [対象範囲]

授賞対象者は、経済統計の研究及び実務又はこれに関連する分野の分析、理論、手法等の発展に関し、多年にわたり顕著な功績のあった個人とし、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。授賞対象は、原則として年間2名以内とする。

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、及び会長が推薦し理事会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞者には、賞状並びに副賞として賞金、記念品及び中村隆英氏の著書を授与する。

#### [参考]

この賞は、第18代日本統計学会会長を務められた故中村隆英氏のご遺族からの寄付を受け、同氏が活躍された分野及び関連する分野において多大な業績を挙げた研究者、実務家等を顕彰することを目的として2020年5月末に創設されたものであり、2024年度が第4回の授賞となります。日本統計学会中村隆英賞規程については、下記 URL をご参照ください。

<https://www.jss.gr.jp/wp-content/uploads/nakamura20200530.pdf>

### 日本統計学会統計活動賞

#### [趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

#### [対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動とし、毎年2件以内に授与する。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進

等）。

- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

#### [賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会統計教育賞

#### [趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

#### [対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし、毎年2件以内に授与する。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

#### [選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。

- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

**[賞の内容]**

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会研究業績賞

**[趣旨]**

統計学及びその関連分野における優れた研究業績を顕彰する。

**[対象範囲]**

過去5年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去5年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書を審査対象とする。授賞の対象となる者は、原則、日本統計学会の正会員もしくは学生会員とする。授賞件数は毎年2件程度とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会小川研究奨励賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

**[選考方法]**

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

**[賞の内容]**

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会出版賞

**[趣旨]**

統計学及びその関連分野において優れた図書（研究、教育あるいは啓蒙）を出版した著者、編者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

**[対象範囲]**

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程

度に刊行された統計学に関連する図書。

- (2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

授賞件数は毎年2件以内とする。

**[選考方法]**

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

**[賞の内容]**

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会小川研究奨励賞

**[趣旨]**

若手の統計学研究を奨励する。

**[対象範囲]**

授賞対象者は、過去3年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去3年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書の主たる著者とし、日本統計学会の正会員もしくは学生会員であって、推薦書を受理した時点において35歳未満の者とする。授賞対象は原則として毎年1名とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会研究業績賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

**[選考方法]**

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

**[賞の内容]**

受賞者には、賞状及び副賞として賞金を授与する。

## 7. 2023年1～6月統計検定 CBT 方式試験の成績優秀者

照井 伸彦（日本統計学会会長）

川崎 能典（日本統計学会理事長）

### 準1級

**最優秀成績賞（S）**：石井大貴，伊藤晋悟，伊藤ちひろ，大岩元，大庭崇稔，萩野孝浩，奥崎秀武，柏雄大，川野裕大，北野祥平，近藤航平，齋藤康太郎，作野浩之，柴田拓海，清水頼人，杉原大樹，杉本賢祐，杉本大樹，杉山諒太，須山雄介，武本孝輔，田中裕生，棚谷比呂，丹治直人，徳山真裕，富澤智史，内藤寿輝，中野遼太，中浜啓輔，西田鴻志，野田健，萩谷勇太，長谷川寿人，花登弘和，前島悠人，松澤創一郎，松田啓佑，宮澤朋也，村上宗司，森山悠也，和田活也，綿野晃生

**優秀成績賞（A）**：相川延弘，青山皓平，阿部空，稲垣良作，岩田修弥，内田和男，梅田政樹，梅原志和，江澤伸太郎，大下真之介，小川浩輝，小川真弘，小坂響，尾関郁哉，小山田匠吾，加藤雅典，椛島恭兵，加茂佳吾，國井創太郎，久留米勇太，畔柳直旺，権田真太郎，笹岡陸人，佐々木聡，佐藤孝志郎，佐藤大央，宍戸直樹，末武大和，鈴木拓巳，須藤龍一，高梨直人，高橋健太，高橋茂則，田中祥平，田中雄太，田原優成，利根川翔，富濱毅，中尾達也，羽瀬森一，濱地雅也，廣瀬翔，藤岡亜門，星野全俊，松澤尚孝，道尻竣，宮本翔太，山田晃寛，山西晟弘，吉川寛，吉田晋，米林拓大

### 2級

**最優秀成績賞（S）**：宇都宮律，大澤真之，太田葉音，越智秀次，笠原悠司，唐澤凌平，川崎直弥，岸田侑也，幸村雄介，小酒井基文，杉本海人，須山雄介，武内健一，館江まなき，富山顯，中島拓也，中村宇堂，藤田亮，町田優一

**優秀成績賞（A）**：青山裕二，秋元達哉，跡部龍之介，嵐大樹，荒谷隼治，池田一生，石崎柊成，伊

藤颯，伊藤隼人，伊藤穂高，伊藤正貴，伊藤雄輔，浦川真，越後裕貴，大石涼斗，大江彰一朗，川島崇志，河野優太，木下裕貴，清岡研治，窪田璃駆，小林直史，小松泰彦，近藤慧，澤田良樹，椎名良治，澁谷紘人，杉本賢祐，角田伊織，竹内津紘，武富大生，館知哉，田中宏明，田辺直哉，田邊元哉，谷真宏，辻美保子，辻本和輝，恒次翔一，利根川翔，中居祐貴，成行浩史，西脇一将，二宮史遵，野津幸知，橋口侑也，林有人，原口卓也，平澤優式，福井岳人，福島怜，藤井晶啓，藤本悠満，前田透，松下恭典，松田陽介，水谷浩路，三田稜一郎，村崎亘，森滉一郎，藪博文，山口紀穂，山崎駿太，山下順，山田賢也，山本剛史，吉岡歩，吉川優，吉田敬文，吉野圭祐，依田博太郎

### 3級

**最優秀成績賞（S）**：青木匠，荒竹義文，有友諒，安藤大介，安藤里佳，石山真由，板垣毅，今井飛希，今井樹宏，遠藤優太，大出龍一郎，岡野晃大，小川七海，小野拓海，大日方勇輝，金久保雅刀，龜山聖太，桐谷大河，黒坂祐介，小酒井基文，小林海理，小堀修，島崎真琴，志水亮太，下川拓己，平良優奈，高井茉佑子，立花れい菜，千賀健司，土田大幸，坪井康憲，徳永千夏，冨塚暖史，富本祐登，長坂和茂，中田智也，永田雅貴，中林亮，中山幸陽，橋本俊一，原口卓也，檜垣里佳，平勢理士，福田慎吾，福田真也，藤井崇丞，藤澤敦，二山晃大，船木翔，堀江隆之，前園健太郎，松浦潤，松田康平，松田拓也，水島淳，宮澤悟史，山口健二，山下正明，横山大輔，渡邊大海

**優秀成績賞（A）**：赤津陸，安達沙楽，安富諒，安孫子勝広，阿部祐介，網野雅人，荒殿航輔，安蒜大慶，石田正成，石村至寛，伊藤大成，伊藤隆

史, 伊藤武寿, 井上勇人, 井上舞花, 伊部浩章, 上原悠輝, 浦江宏志, 江川輝, 江口典郎, 江藤天俊, 榎村剛, 大井万由子, 大武勇人, 大野直樹, 大橋尚生, 大橋雄人, 岡田裕一郎, 岡本航青, 小口徳彦, 加藤亮, 金親信寛, 川分直也, 管野皓, 神林卓未, 菊地健雄, 岸義弘, 金睿那, 木村陸, 高谷淳, 小山翼, 近藤祐太, 櫻田京之介, 佐々木大輔, 志賀広拓, 重川幹人, 篠塚大雅, 嶋村亮, 庄野寛汰, 杉本篤史, 杉山大介, 高木健太郎, 高野裕貴, 滝本拓真, 辰巳由, 丹波慶彦, 土谷睦月, 徳永尚史, 友澤隆幸, 友森宏樹, 中尾洋介, 中島駿平, 中島渉, 中原優, 中山隆盛, 那須裕一, 西村晋平, 西脇裕介, 布村周哉, 萩元信彦, 秦志於里, 秦秀治, 服部優典, 服部礼, 林直弥, 林佑紀, 原田あすか, 原田さくら, 平野渚, 平野秀鷹, 黄陳ろ, 藤江正博, 星野和也, 堀遼介, 前田雄大, 牧田晟洋, 増林由真, 松井裕哉, 眞能孝明, 村上紘士, 森春翔, 森本卓也, 森山隼, 山田航太郎, 山田剛士, 李佳婧, 和田拓也, 藁科碧

#### 4級

**最優秀成績賞(S)**: 阿部祐太, 伊神公博, 石澤樹, 磯貝隆幸, 岩撫英雄, 内田行司, 荻原大樹, 門倉聡, 川口大輔, 齋藤康生, 坂下学, 佐野貴興, 柴谷寿郎, 杉山大介, 高森裕也, 武田祐司, 中島航輝, 中島駿平, 原和史, 堀江諒介, 御崎芳仁, 山口雄斗, 山崎美幸

**優秀成績賞(A)**: 青木俊輔, 安宅龍之介, 足立紗羅, 池田智之, 石塚和樹, 岩尾大輝, 遠藤大, 遠藤嘉紀, 太田早紀子, 大山航我, 岡本更紗, 小木曾勇人, 門田敬之, 河口洋平, 川崎健太郎, 河野正稔, 神戸七海, 小西宏明, 駒形健太, 近藤優香, 齊藤学, 坂口暁紀, 坂本憲一, 佐藤一貴, 佐藤京ノ介, 澤野直人, 蔣小敏, 重松あかね, 志村祐輔, 須長洋平, 高須淳一, 高橋大, 田部井駿, 太良功司, 佃紗英, 辻大夢, 土田孝徳, 土屋詩綺, 照井康世, 堂本和花, 中泉雅行, 中尾美音, 中田直希, 中村譲, 馬場健太, 林隆之, 原田好花, 晝間嶺歩, 福田忠之, 福西玲治, 福光秀伸, 松本亘平, 宮永正斗, 村尾和哉, 本山博文, 柳田

信, 山口卓也, 山下航輝, 山田萌生, 吉岡智子, 吉畑充, 若菜成人

#### 統計調査士

**最優秀成績賞(S)**: 大友荘河, 大畑潤貴, 菊池孝宏, 角倉史章, 芳賀冬唯, 樋口真志, 米林拓大  
**優秀成績賞(A)**: 秋保直弘, 飯沼章太, 石川洋輔, 伊藤元一, 牛尾拓, 大庭裕之, 荻野健太, 小畑紘大, 小俣遼河, 川嶋汐里, 菊地浩道, 國崎真奈, 小池敏夫, 齋藤元滋, 桜花和也, 佐藤敦志, 佐藤大明, 佐野晃一, 杉浦忠嗣, 鈴木拓巳, 九十九洋, 戸簾隼人, 富山貴史, 豊田智隆, 内藤大貴, 濱田悠司, 林芳隆, 人見浩彰, 廣田良浩, 藤野元将, 藤原俊輔, 古川かおり, 古澤悠季, 三橋孝一, 望月基史, 森下昌則, 森本ひめり, 吉井元汰, 吉田悠起, 米原陸, 鷲尾健一, 渡邊裕人

#### 専門統計調査士

**最優秀成績賞(S)**: 菊池孝宏, 木下晃嗣, 小柳元, 鈴木拓巳, 豊田智隆, 坂東佑一, 尾藤皓太郎, 松本暢史, 宮崎大輔

**優秀成績賞(A)**: 赤松みづき, 伊藤元一, 岡本和範, 川口裕樹, 川口雄也, 川嶋汐里, 高野洋一, 出納宏之, 中島泰暉, 廣田良浩, 廣野莉早, 山谷健一

#### データサイエンス基礎

**最優秀成績賞(S)**: 秋本隆, 小林直史, 齋藤元滋, 冨田健人, 津民隆雄, 堤康平, 山本さくら, 渡邊大海

**優秀成績賞(A)**: 上木昭彦, 遠藤新一, 岸本一成, 橋本耕一, 濱田悠司, 日原将希, 山口健二

#### データサイエンス発展

**最優秀成績賞(S)**: 須藤康彦, 戸田一志, 原田将彰

**優秀成績賞(A)**: 遠藤新一, 高橋勇太, 永井俊行

#### データサイエンスエキスパート

**優秀成績賞(A)**: 田中智規

## 8. 理事会・委員会報告（2023年10月6日開催）

### 一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2023年10月6日（金曜日）

午後6時00分～午後6時21分

場所：統計数理研究所 D404

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID：825 7521 0312）

理事の総数 14名 出席理事の数 13名

監事の総数 3名 出席監事の数 3名

出席者：

理事：照井伸彦会長，川崎能典理事長，小山慎介（庶務），伴正隆（庶務），吉田靖（会計），増田弘毅（JJSD），原尚幸（会誌編集和文），小西葉子（広報），高部勲（大会・企画・行事），荒木由布子（国際），鎌谷研吾（国際），植木優夫（渉外），竹内光悦（教育）

（以上13名，括弧内は役割分担）

監事：大森裕浩，樋口知之，山下智志

#### 第1議案 日本科学技術連盟の賛助会員について（資料1）

川崎理事長より，資料に基づき，一般財団法人日本科学技術連盟の賛助会員入会について提案がなされ，審議の結果，承認が得られた。

#### 第2議案 日本統計学会小川研究奨励賞規程の改正について（資料2）

川崎理事長より，日本統計学会小川研究奨励賞規程の改正について，以下2点の提案がなされ，審議の結果，承認が得られた。

- 1) 副賞として小川論文集の授与を削除する（第4条）。
- 2) 誤字訂正「受賞次第」→「授賞次第」（第6条）。

#### 第3議案 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について（資料3，資料4）

川崎理事長より，資料に基づき，学会賞各賞の候補者推薦を開始することが提案され，審議の結果，承認された。また，推薦受付期間は2023年12月4日（月）から2024年3月22日（金）までとした。

#### 第4議案 社員懇談会招集の件

照井会長より，社員懇談会を以下のとおり招集する旨を述べられた。その可否を理事に諮り，承認が得られた。

1. 日時 2024年3月8日（金）午後6時00分から
2. 場所 オンライン開催（Zoom）
3. 会議の目的事項

（1）社員懇談会における通常の審議

#### 第5議案 会員の入退会（回収資料）

川崎理事長より，回収資料に基づき，入退会希望者を紹介され，審議の結果，承認された。

### 一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2023年10月6日（金曜日）

午後6時21分～午後7時24分

場所：統計数理研究所 D404

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID：825 7521 0312）

出席：理事13名，監事3名，委員0名，計16名

照井伸彦会長，川崎能典理事長，小山慎介，伴正隆，吉田靖，増田弘毅，原尚幸，小西葉子，高部勲，荒木由布子，鎌谷研吾，植木優夫，竹内光悦，大森裕浩（監事），樋口知之（監事），山下智志（監事）

欠席：瀬尾隆

<報告事項>

#### 1. JJSD 支援委員会

増田委員長より，JJSD の編集状況について報告がなされた。

#### 2. 和文誌編集委員会

原委員長より，和文誌の編集状況について報告がなされた。

#### 3. 大会委員会

高部委員長より，本年度の統計学会連合大会について，大会組織委員会から，報告がまだ出ていないことが報告された。

#### 4. 企画・行事委員会

高部委員長より，本年度の春季集会について準備状

況が報告された。

#### 5. 庶務委員会

小山委員長より、4件の後援承諾と1件の推薦について報告がなされた。

- ・2023データ利活用シンポジウム in 高野山 - 地方創生 - データサイエンスのすすめ

主催：総務省，独立行政法人統計センター，和歌山県

- ・統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰

主催：(公財) 統計情報研究開発センター

- ・IDWSDS2023

主催：Caucus for Women in Statistic (CWS)

- ・人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2023)

主催：情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会 (IPSJ SIG-CH)

推薦について

- ・令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞

#### 6. 広報委員会

小西委員長より、会報の発行等に関する活動報告がなされた。また、HPの内容に修正すべき箇所があれば教えて欲しい旨の依頼がなされた。

#### 7. 国際関係委員会 (資料5)

荒木委員長より、KSS-CSA-JSS Joint International Sessions 2023と、2023年度統計関連学会連合大会におけるプレナリーセッションでの活動について報告がなされた。

#### 8. 渉外委員会

植木委員長より、令和6(2024)年度研究成果公開促進費 国際情報発信強化(B)への申請を行った旨、報告がなされた。

#### 9. 質保証委員会

報告事項無し。

#### 10. 統計教育委員会

竹内委員長より、各種データ解析コンペティションへの後援や共催、連合大会における関連セッションのオーガナイズ、他の分科会と共同で中高生・スポーツデータ解析コンペティションの開催、教材コンテンツの開発計画など、委員会活動が報告された。

#### 11. その他

樋口監事より、学会賞等受賞者に和文誌への寄稿を依頼するプロセスに関して改善の提案があり、議論がなされた。

#### <審議事項>

審議事項なし

#### 今後の予定

2023年11月17日(金) 18:00

日本統計学会春季集会準備会議：開催形式未定

2024年2月17日(土) 13:00

理事会：開催形式未定

2024年3月8日(金) 18:00

社員懇談会：オンライン開催(予定)

2024年3月9日(土)

第18回日本統計学会春季集会(成城大学)

## 9. JSS Research Series in Statistics からの新刊情報

日本統計学会編の書籍シリーズ JSS Research Series in Statistics からの新刊情報を掲載します。

●丸山祐造・久保川達也・William E. Strawderman 『Stein Estimation』

Springer, 2023年10月, 冊子体: 49.99ユーロ

内容紹介: 多変量正規分布の平均ベクトルの推定問題に対する Stein 推定について、特に(一般化)ベイズ推定量の許容性, 非許容性, ミニマックス性に焦点を当てます。自己完結的な証明を与えているのが特徴です。

## 10. 日本統計学会和文誌特集号の原稿募集

日本統計学会誌（和文）では、「医学・疫学分野における統計アプローチ」と題した特集号の発行を予定しており、現在、掲載する論文を募集しています。

特集「医学・疫学分野における統計アプローチ」  
提出締切日：2024年6月1日  
出版予定：第53巻（第2号）（2025年3月発行）  
編集者：福井敬祐（関西大学）、伊藤ゆり（大阪医科薬科大学）

特集の要旨については、下記 URL をご参照ください。

<https://www.jss.gr.jp/wp-content/uploads/SI2024.pdf>

投稿要領・査読の方式は通常の投稿と同じになりますので、下記 URL をご覧ください。

<https://www.jss.gr.jp/act/journals/rule/>

ご投稿の際には、件名に本特集「医学・疫学分野における統計アプローチ」への投稿であることを明記し、和文誌編集担当理事（[jjss-jpn@jss.gr.jp](mailto:jjss-jpn@jss.gr.jp)）宛てにお送りください。

## 11. 学会事務局から

### 学会費払込のお願い

2023年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。（<https://www.jss.gr.jp/fee/>）。

### 学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6

能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : [shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)

### 現在の会員数（2023年12月15日）

名誉会員	12名
正会員	1,372名
準会員	8名
学生会員	67名
総計	1,459名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

## 12. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

### ● 来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

●博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

●求人案内（教員公募など）

●研究集会案内

●新刊紹介

著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし，主観的な表現は避けてください。

●会員活動紹介（叙勲・受章，各種受賞等）

できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒100-8901

東京都千代田区霞が関 1 丁目 3 番 1 号

経済産業省別館11階

独立行政法人経済産業研究所 小西 葉子 宛

E-mail: koho@jss.gr.jp

(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL：  
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：  
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：  
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：  
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス：  
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス：  
shom@jss.gr.jp